

私たちの食生活を支える日本の農業について調べてみよう！

日本各地では、どのような農産物のうさんぶつが作られているのかな？



日本各地では、その土地の気候にあわせてさまざまな農産物が作られています。一方で、温暖化の影響と考えられる農産物の被害ひがいも見られています。以前は生産できていたものが生産しづらくなったり、反対に、以前は生産できなかったものが生産できるようになったりもしています。

<食べ物をたくさん作っている都道府県別ランキング（2023年）>

米の産出額

- 第1位 新潟県
- 第2位 北海道
- 第3位 秋田県

野菜の産出額

- 第1位 北海道
- 第2位 茨城県
- 第3位 熊本県

果実の産出額

- 第1位 青森県
- 第2位 長野県
- 第3位 山梨県

生乳の産出額

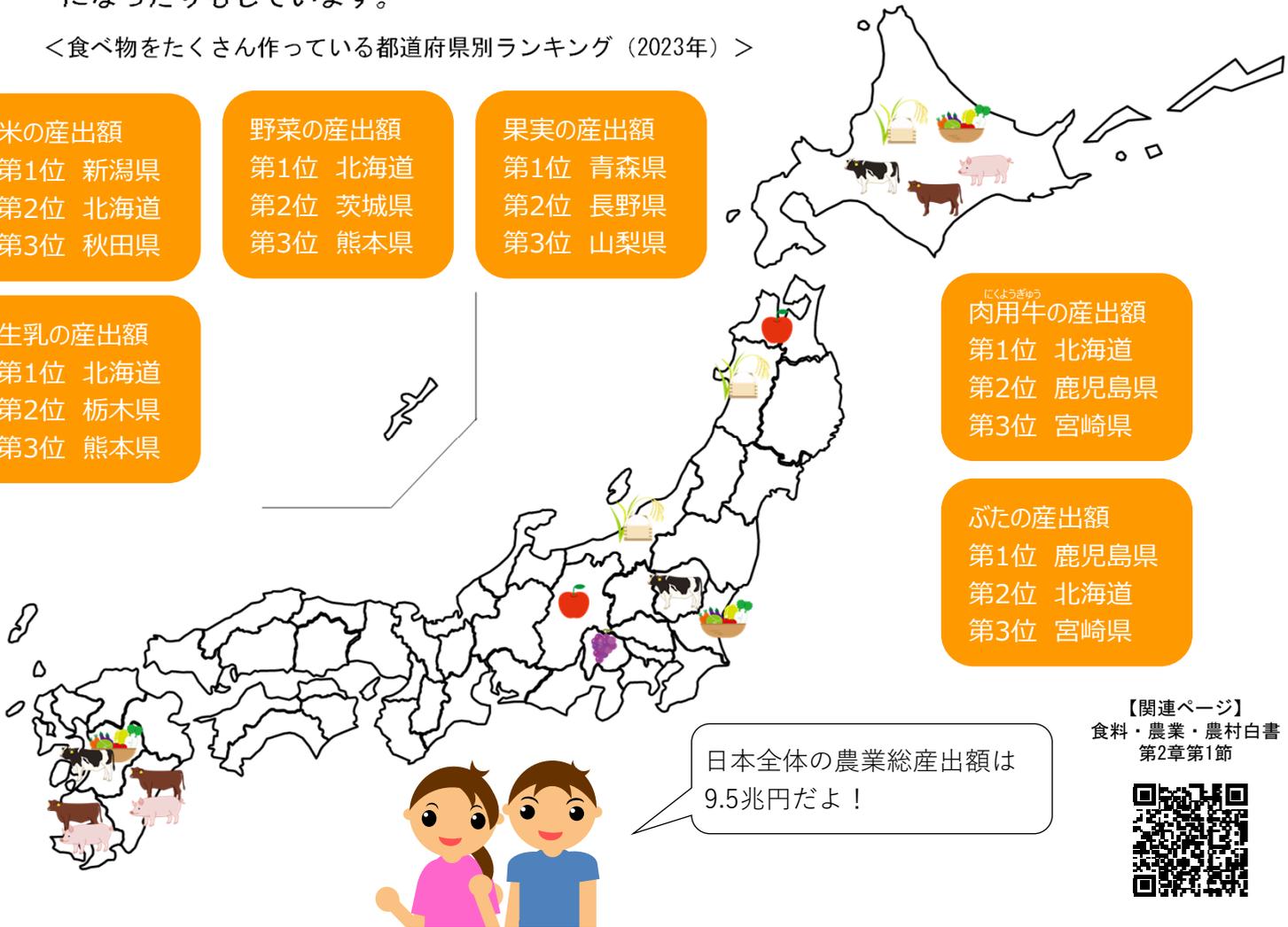
- 第1位 北海道
- 第2位 栃木県
- 第3位 熊本県

肉用牛にくようぎゅうの産出額

- 第1位 北海道
- 第2位 鹿児島県
- 第3位 宮崎県

ぶたの産出額

- 第1位 鹿児島県
- 第2位 北海道
- 第3位 宮崎県



【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第2章第1節



米が北海道、東北、新潟県で生産が多いのは、寒いところでもできる品種改良や栽培技術が向上したことや、昼と夜の気温の差が大きいことが稲いねの生育に良い条件となっているためです。



野菜について、北海道ではたまねぎ・にんじんなどの生産が多く、茨城県ではれんこん・みずな・はくさい・ピーマンなどの生産が多く、熊本県ではトマト・なすなどの生産が多くなっています。



りんごが青森県や長野県で生産が多いのは、平均気温が低く、栽培さいばいに適しているためです。



酪農らくのうが北海道で盛んなのは、広い土地で乳牛のエサとなる牧草にゅうぎゅうなどを多く生産できることや、北海道は暑さに弱い牛にとって住みやすいためです。

効率の良い農業やいろいろな作物を作るために農地を改良しているよ！

少ない人数や時間でも農作業をやりやすくするために、1つの田んぼや畑の面積を大きくしたり、田んぼで野菜も作れるように、水はけをよくするための整備をしたりしています。

<1つの田んぼの面積を大きくした例>



小さな田んぼの集まり

小さな田んぼをまとめる



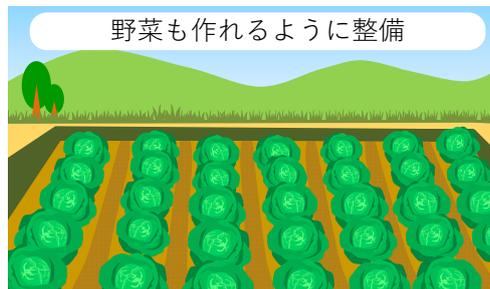
整備した大きな田んぼ

<野菜を作れるようにした例>



お米を作っている田んぼ

水はけをよくする



野菜も作れるように整備

【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第2章第8節



面積を大きくすると大きなトラクターを使えるから、農作業の時間を減らせるよ！

いろいろな作物が作れるようになるので、農家さんのチャレンジの幅も広がるね！

田んぼや畑に水を届ける「農業水利施設」

のうぎょうすいりしせつ

農業には水が欠かせません。特に稲作には大量の水が必要です。そのためには、水をためる施設や水を遠くまで運ぶ水路などが必要です。これらの施設は、古くから長い期間をかけて整備され、農家さんが中心となって守ってきました。

現在でも、農業用に水をためるダムや川をせき止めて水をとるための取水せき（頭首工ともいいます）が多く地域にあります。また、農業用の水路は、小さなものまでふくめると約40万キロメートル以上も整備されており、これは地球と月の距離（約38.4万キロメートル）を超えます。

みなさんが川だと思っている水路も、もしかしたら、食べ物を作るための大事な水を運ぶ農業用の水路かもしれません。



農業用の水路をつなげると月まで行ける長さになるなんて、びっくりだね！
でも、多くの水路やせき・ポンプ場などの施設は古くなっていて、近い将来修理が必要なんだ！

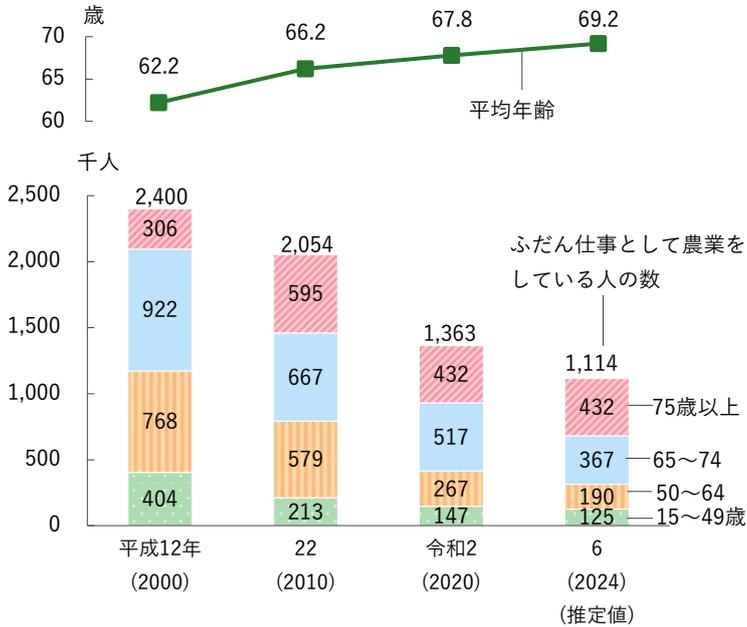
【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第2章第8節



ロボットや情報通信技術の活用が進んでいるよ！

農業で働く人は減少し、高齢化も進んでいます。そこで、農作業にロボットや情報通信技術を使う「スマート農業」の技術開発やその実用化が進んでいます。

＜ふだんの仕事として農業をしている人の数と年齢＞



資料：農林水産省「農林業センサス」（組替集計）、「農業構造動態調査」を基に作成



ブロッコリー収穫機

資料：株式会社鈴生



ドローンで農薬をまく様子

資料：株式会社NTT e-Drone Technology

【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第2章第3節



【関連ページ】
食料・農業・農村白書
特集3



その地域ならではの農林水産物や食品を保護する取組も進んでいるよ！

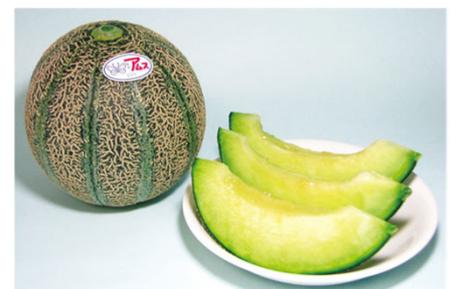
日本には、地域の伝統に生まれ、生産地の気候や風土などによって生み出された味や形、香りなどをもつ農林水産物や食品がたくさんあります。また、このような産品を偽物と区別するため、地理的表示（GI）保護制度という仕組みもあります。



ちんすこう
(沖縄県)



かづの牛
(秋田県)



益田アムスメロン
(島根県)

2025年3月時点で161産品が登録されているんだね！
自分の地域にはどんなGI産品があるか調べてみよう！



【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第2章第10節

